

ひげおじさんからの苦言

『いっくんは親じゃ、おじもは絶対伸びない』

一、自分の感情にまかせ、そのときの気分で子どもに接する親

喜怒哀楽は、人の常。しかし、度を越しては罪作りです。

一、ほめることも叱ることも、無（む）分別（べつべつ）の区別（くわべつ）がつかない親

お子さんは、さぞ居心地の悪い思いで家にいることでしょう。

一、『放任主義』という美名のもと、自分のことしか考えず、計画性のない生活を続け、子育てに関心を示さない、子育てを放棄する親

子どももきつと、そういう親になるでしょう。

一、『怒る』『叱る』の区別がつかない親

『怒る』とは、自分の感情にまかせ、その怒りに元をなすもの。『叱る』とは、厳しくも相手も思いやる優しさに元をなすもの。

一、子どもを罵（のの）しつづけた、子どもの消極的、短所（たんじょ）的側面（たてめん）のみを自ら奪（うば）われ、自分自身も否定的

消極的感情で物事を見え、そのもの見方（けんさ）（考え方のものなり）を壽命（じゆん）（子ども）に押し付けようとする親

そのお子さんも、世の中を、自分自身をも、消極的かつ否定的にしか見れない人間へと成長（肉体的に）するでしょう。

一、他人の子と比べる（くら）ぶ傾向（けいこう）が、自分の子を見る（みる）ことができない親

もし自分がそのような立場におかれたら、どう感じるでしょう。

一、子どもの成長をじっくり、たっぷり時間をかけ、見守れない親

過大に目先の点数、目先の出費のみを評価項目とし、本人の努力あるいは不安・悩みには、一切目もくれず、金銭的負担・無駄をあからさまに子どもにぶつける。拳句の果てには、勉強なんて、学校なんて、塾なんてさつさと辞めてしまいなさい、などと豪語する始末。

総じて、ダメな親とは、大人なのに本当の大人になっていない、親なのにただの子どもが親になっただけの人、ということができるでしょう。しかし、未熟ながらも懸命に子育てに励んでいらつしやる親御さんは、決してダメ親なんかじゃありません。誰しも熟達した親になってから、子育てを開始した人なんていませんからね。『子育て時間』なんて、あつという間に過ぎ去ってしまいます。可愛い子どもたちも、あつという間に自立し、いつの間にか、お兄ちゃん、お姉ちゃんからおじさん、おばさんと呼ばれます。親は、子どもの巣立ちまでは、じっくり、しつかり時間をかけ、気強く気長に、おおらかに、子育てを楽しんでください。子どものすこやかな成長、安全のためなら、自身の身を削つても、身を挺して、己の命をかけ、己の身をも捨てる覚悟でいっくんだ子どもたちが、光耀（こうごう）がないはずはないのです。がんばれ親。私は『子育て』を終えた人間ですが、振り返ってみれば、『子育て』によって自分自身が子どもたちに教育してもらったんだな、と強く実感しております。加えて、誤解のないように申しておきますが、子どもたちに嫉（ねた）みはいらぬ、子どもには好き勝手にさせてください、と言っているわけではありません。時として、巍然とした親の態度も必要です。また、その家庭、その家庭によって考え、事情も異なっていることは存じております。ただし、親として、教師として長年子どもを見てきた者として、以上のことを痛感する現実に数多く出くわし、同時にそのことにより、今でもなお、後悔なさっている親御さんがいらつしやる、という現実を子育真（まこと）最中（さいちゆう）の親御さんである皆さまに知ってほしいのです。繰り返し声を大にして言わせていただきます。がんばれ大人。がんばれ親。気強く気長に、おおらかに。